

Design Visions Series

イノベーション都市を作る

田村大 株式会社リ・パブリック 共同創設者・共同代表
東京大学 i.school 共同創設者エグゼクティブ・フェロー

2015年1月23日(金) 16:30-18:00 総合研究8号館 講義室1

Re:Public Inc. 共同創設者であり、東京大学 i.school 共同創設者である田村大氏に講演をしていただいた。特に、福岡市と一緒に、福岡をイノベーション都市にするために、様々な活動をされている。

まずイノベーション都市として Copenhagen のような例が示された。世界のレストランと言われている Noma、インスリンで世界 No1 であるが Novo Nordisk の NovoPen Eco のような事例が紹介された。そして、Copenhagen を目指し、連携している福岡を同様のイノベーション都市にするという試みが紹介された。市民発のイノベーションを生み出すため、Innovation Studio を運営されている。40名の市民と専門家を組み合わせて、デザインしていく。日常の中のスポーツのデザインやライフコースのイノベーションなどの事例を紹介いただいた。

イノベーションとは何か？ 田村氏は「人間の行動・習慣・価値観に不可逆の変化をもたらすアイデアの普及」と定義する。アイデアを思いついてそれを投げつけて成功するものを選ぶのではなく、新しい行動、習慣、価値観から出発し、逆算してアイデアに結びつけるという考え方である。その例として、IDEO の著名な Keep the Change などが紹介された。IDEO のデザイナーはお金が貯まらない人は買い物の回数が多いことを発見した。それなら買い物をする度にお金が貯まればいい。そういう発想だった。Apple もこれを実践している。技術としてどういう世界が可能かを考え、それに向けて商品を考える。これにより、成功の確度が上がるし、企業としても Apple のように事業をフォーカスし製品ポートフォリオを小さくできるという。

最後に、今後の世界情勢がどうなるのかにまで議論が及んだ。特に中国で、日本におけるトヨタや韓国のサムソンのような産業をリードする企業は現れないという議論が紹介された。アリババがその可能性があるが、アリババはマーケットプレイスである。中国の強さは、マーケットプレイスであるということである。深圳では製品を製造するための雑多な企業が集まり、そこに仕様を持ち込めばすぐに製品化できる。技術やノウハウもオープンなので、大きな企業が出現するよりも、雑多な企業がうごめいている。義烏(イーウ)では、50万種類の軽工業品のうち40万が取引されており、店頭で商品を見てこれをいくら欲しいというと、製造を依頼できる。このような製販一体のマーケットプレイスが中国の本質である。

福岡では、北欧型の Quality of Life を追求するイノベーションと中国の製販一体型のマーケットプレイスの両方と結びつき、イノベーション都市を作りたいということであった。